

高校「芸術」の授業について

高校生になると今まで学んでいた「音楽」、「美術」、「書写」が芸術科目となり、「芸術科」の中のそれぞれ「音楽」・「美術」・「書道」となります。変化が大きい科目は国語科「書写」が芸術科「書道」に変わることはないでしょうか。筆という同じ道具を使っている、正しい字形を美しく書くという学びが、書を用いて自分を表現する学びへと発展していきます。自分の目で鑑賞をして何が美しいのかを判断する必要があります。

音楽、美術は文字の上で変わりはありませんが、書写から書道へ変わるのと同様に音楽、美術も芸術科目になります。自分が何かを表現する際のツールとして「音楽」、「美術」、「書道」の何を選ぶかは皆さんに委ねられていますが、どの科目でも正解のないものを追い求め表現しようとする姿勢が大切になります。「自分の感性」を信じ、自信をもって表現できる人間となることを目指して各科目を学んでほしいと思います。

音楽

中学までは大人数で表現をする中で音楽の技術と感性を磨いてきました。高校では磨いてきた音を「自己の表現」へとつなげ、音楽的に自立することを目指します。

内容・評価方法

1. 歌唱

発声の仕組みを理解し、様々な言語やジャンルで歌います。今までに歌ったことのないイタリア語・ドイツ語やフランス語の歌曲、ミュージカルナンバーやポップスなどを取り上げ、単元の終わりに独唱の試験を行います。

2. 器楽

ギターをメインに楽器の扱い方や奏法を学び、楽器でも自己表現ができるように研鑽します。単元の終わりには進度の確認を行います。

3. 鑑賞

一年間を通してテーマを設け、テーマの中で各曲を比較しながら聴くことで、感性の幅を広げます。批評文の提出や、小テストを行います。

4. 楽典

音階や楽譜の成り立ちから学び、楽譜を読み取って表現できることを目指します。確認テストや、創作時の記譜などによって評価します。

5. 創作

曲作りのルールを学び、その枠の中で創作する活動を通してより自由な創作につなげていきます。ルールの中で創作できているか、アイデアが音に生かされているかを、作品を通して評価します。

上記5つの学びを踏まえた上で、高校1年生ではアンサンブルによる発表を、高校2年生では独唱または独奏による発表を行い、音楽的な自立を目指します。

美術

美術の授業では、日常的に役立つ発想力や創造力を身につけることを目標としています。
中学で培った技術を発展させながら、より専門的な道具を使用して自己表現を追求します。

【主な内容】

高 1	1 学期	油彩画Ⅰ（構図について・アイデアスケッチ～色付け）
	2 学期	油彩画Ⅰ（陰影付け、仕上げ） パッケージデザイン（アイデアスケッチ）
	3 学期	パッケージデザイン（制作）
高 2	1 学期	紙による抽象立体（制作）
	2 学期	鉛筆デッサン（静物）、油彩画Ⅱ（アイデアスケッチ、色付け）
	3 学期	油彩画Ⅱ（色付け、仕上げ）

【留意点】

1. 評価

- ① 作品の完成度
- ② 自分の制作意図を十分に記した詳細な作品解説
- ③ 授業、作品制作に取り組む姿勢

の3点を主な評価材料とします。

高校美術は、中学より一層自主性を重んじて、根気・忍耐力を要する授業内容となります。たとえば、油彩画は色や形が途中過程と完成時で大きく異なるため、過程を見ながら教員からアドバイスすることが難しい面もあります。毎時間自分からわからない点を聞きに行くことで、より高度な作品へと導くことができます。

もちろん、「どこから始めればよいのかわからない」「何がわからないのかわからない」という疑問でも構いません。大切なのは、自主性・積極性のある授業態度です。

2. 教材費

選択者全員には、油絵具セット一式などを購入してもらいます。高1・高2あわせて**教材費が高額（1万円前後）**になりますので、ご承知おきください。

3. におい

特に油絵は**石油系のきついにおい**があります。匂いに敏感な生徒、敏感肌アレルギーの生徒のみなさんはこの点も含め検討してください。

中学美術とは評価の厳しさもカリキュラムも大きく異なります。上記を熟読したうえで「**自分はどう**
それほど美術と向き合えるのか」を考えて選択してください。

書道

高校での書道選択条件は『文字を書くことが好きである』ということです。

文字の上手、下手は個人差もあります。正しく、美しく、丁寧に書くことを基本として、自己を見つめ、創造する力を養います。自分の個性を知り、豊かな人間形成を意識しながら学習していきます。書の楽しさ、美しさを体験しつつ表現力・創造力の向上を目指します。

下手であっても構いません、好きならば選択してください。また、創作力を養うことに興味があるならば選択してください。書を通して、生活の中で実践できる応用力を育みます。作品制作の中で、自分の表現力や集中力までが見える教科です。等身大の自分と向き合い、頭と心、身体の接続を自分で司る手立てを学べます。

【内容】

☆中国の古典や歴史を学びながら、各時代の楷書・行書・草書・篆書・隸書などに触れていきます。

軸サイズ（半切）の紙に作品に挑戦し、また細字作品の学習からノートの文字の変化へと発展させます。その他、印材に名前を彫る篆刻も行います。日本の仮名のリズム、流れの美しさを理解し表現法を体験します。

☆書いては鑑賞し、鑑賞しては書き鑑賞する目を育み、将来役に立つ書文化についての生きた教養を身につけ、実践していきます。また、鑑賞では古き拓本の鑑賞もしていきます。

【用意する道具】

☆墨（固形・墨汁は不可）・硯（石・プラスチック製は不可）・筆（大・小）・紙
下敷き・文鎮・雑巾・スポイト・教科書・鉛筆（4B 以上）

※最初の授業で用具の説明を致します。

現在、持っているお道具をそのままお持ちください。買い直しが必要なもののみ指示いたします。